



益城町 もうちょっと トーク

未来トーク延長戦

12月18日、町保健福祉センターで、益城町の将来を若者たちが語り合うトークイベント「益城町もうちょっとトーク」が開催されました。

この催しは、10月8日に実施した「益城町未来トーク」の延長戦で、町内外の高校生、大学生など32人が参加し、前回に引き続き熊本大学の田中尚人准教授進行のもと、6班に分かれグループワークを行いました。

まずは、前回の「未来トーク」を振り返り、各グループから発表されたまちづくりのアイデアなどをみんなで共有しました。

前回出された「子育て、教育の充実」の提案などは、12月に策定された町の復興計画へ実際に盛り込まれています。

続いて「町の課題」と「10年後の町の姿」を付せんやマジック、模造紙を使いながらそれぞれ出し合いました。その中から「これなら行政の力を借りず、自分たちの力で解決できる」「ここを変えたい」というものをグループで1つ選び、「どうやったら解決できるか」「自分たちでできること」を提案しま



した。

最後の各グループの発表では、寸劇を通して、益城の農産物を使った特産品の販売や、町が明るくなるような街灯の製作、町の魅力的な場所の動画の作成などの提案がありました。寸劇形式ということもあり、どのグループも「益城って何があるんだろう?」「益城には飯田山とか楽しいところもある」「私たちの意見も聞いてください」など、みんなの日々の思いが十分に伝わるものとなりました。友だちと参加した東稜高校1年の三森菜月さんは、「現実になりそうな意見が出ていました。復興に参加したような気がして楽しかったです」と話してくれました。

町では、1月中には、プロジェクトチームを立ち上げる予定です。また、「未来トーク」をきっかけに高校生たちが町の将来について語り合う「益城町未来ハイスクール」の活動も始まっています。一番大切な事は「未来トーク」、もうちょっとトーク」で出たアイデアをそのままにせず、自分たちで実現すること。若者たちの活動はこれからも続いていきます。